審査結果報告書

2024年　2月　2日

主　査　　氏　名　福田 倫也　印

副　査　　氏　名　アタとしゆき　印

副　査　　氏　名　根本 亮　印

副　査　　氏　名　福島 健介　印

1．申請者氏名　：　DM20001　石井　大輔

2．論文テーマ　：
Limitation of the external glenohumeral rotation is associated with subacromial impingement syndrome, especially pain.（肩甲上腕関節の外旋制限は肩峰下インピンジメント症候群の痛みに関連する.）

3．論文審査結果　：

肩峰下インピンジメント症候群（同症候群）は，上肢挙上時に上腕骨の大結節が肩峰と衝突することにより痛みを感じる疾患であり，可動域制限や動作時痛，夜間痛を引き起こす．その病態として従前上腕骨頭の上方化を抑制する腱板機能の低下が重要と考えられてきたが，否定的な報告もある．研究者らは腱板機能の内，腱板筋の横方向の回旋に着目し，健常者と同症候群者の肩回旋可動域を Cine-MRI を用いて測定した結果，同症候群者は有意に可動域が低下していたと報告した．しかし，肩甲上腕関節における回旋制限と同症候群者の臨床症状の関係は不明である．

本学位論文は同症候群者を対象に，Cine-MRI と理学所見（肩関節屈曲・外転・下垂位での内外旋の可動域），臨床症状（Constant スコア，UCLA スコア，夜間痛の有無）を用いて，回旋機能と臨床症状の関連を検討した．その結果，同症候群者の臨床症状は外旋角度と相関し，痛みについては外旋制限が強い患者が痛みや夜間痛をより自覚することが明らかになった．

一般に肩関節外転には初期から外旋の要素が必要であるが，本学位論文でも同症候群者では屈曲よりも外転制限が強かった．本結果より，(1) その病態として，外旋制限が外転時の衝突を引き起こすことにより可動域制限が生じ，同時に痛みを誘発する，(2) リハビリテーションにおいて外旋機能の改善は同症候群者に対する有効な治療法の一つと考えられる，と考察していることは臨床的に極めて意義深い．

以上より，博士（医学）の学位取得に相応しいと判断した．